

ベンチャースカウト ハンドブック

改訂版

〈進歩編〉

(稿本)

第1章

ようこそベンチャースカウトへ

1. ベンチャースカウト活動の「目的」
2. ベンチャースカウト活動の「目標」
3. ベンチャースカウトになるには
4. ボーイスカウトの基本を再確認しよう
5. 進歩課目「ベンチャー章」にチャレンジ
6. 進歩課目「隼」にチャレンジ
7. 進歩課目「富士」にチャレンジ
8. ベンチャープロジェクト
9. 技能章

本書は、『ベンチャースカウトハンドブック』改訂のための稿本であり今後修正の可能性があります。



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

～ようこそベンチャースカウトへ～

ベンチャースカウトが目指しているもの、それは、「最も充実した人生を送ることができる人になる」ということにほかなりません。では、充実した人生、幸福な人生とはどのような生き方なのでしょう？

その答えは、人それぞれの価値観で大きく違っているように思われがちですが、ボーイスカウト運動の創始者ベーデン・パウエル卿は、「幸福を得るほんとうの道は、ほかの人に幸せを分け与えることにある」と自身の「最後のメッセージ」に残しています。その姿は、ベンチャースカウトの最高位である富士スカウトが目指す、「社会の一員としての自律と責任、公共心を備えた、良き公民」であると言えます。

「ちかい」と「おきて」の実践を基に自分で考え、責任をもって行動できるスカウト、それがベンチャースカウトに求められている姿です。その活動にあたっては、野外活動で得た知識と技能をベースに、国際社会を視野に入れながら地域社会や環境保護に対し積極的に奉仕することが、たいへん重要になります。

ベンチャースカウトの仲間入りをした今、あなたがベンチャースカウトとして何をを目指すのか、まずはベンチャーリーダー（隊長・副長）とそのことについて話し合ってください。自分がやりたいこと、仲間と一緒にしてみたいことなど、夢とロマンに満ちたプログラムを考えて、積極的に提案していきましょう。その活動は、内容によっては、グループが活動の単位になることもありますし、個人プロジェクトの形で実施するものもあります。期間も比較的短い日数で終わるものや、長期間を要するプロジェクトもあるでしょう。肝心なことは、ベンチャーリーダーのアドバイスを受けながら自分たちで企画し、年間の活動計画を立て、そして基礎的な技能を身につけたうえで、タイムスケジュールに沿って効率的に、楽しく最後までやり遂げることです。ベンチャー隊の運営やプログラムのヒントは、このハンドブックに書かれています。入隊に際し、特にこの第1章をよく読み、その後は各種ハンドブックを参考に、これだと思ったことを企画し、仲間と協力しながら自分の可能性に挑戦してください。

ぜひ、あなたたちのベンチャースカウトとしての生活を愉快で充実した活動で満たしてください。あなたたちのベンチャーリーダーは、良き理解者としてあなたたちを支援してくれます。

～ベンチャースカウト活動を始めよう～

1. ベンチャースカウト活動の「目的」

ベンチャースカウトの基本は、自分で考え自分で行動することです。ですから、ベンチャーになったスカウトには、より自発的で積極的な活動への参加が求められます。また、明確な目標のもとで計画を立て、責任をもって実施し、適切な評価、つまり、良かった点、悪かった点などを分析し、過程で学んだこと、理解したことの正しい把握ができるスカウトというのが、ベンチャースカウトに求められている姿です。

また、これからのグローバルな世界で活躍するには、国際的な感覚も必要とされるでしょう。世界の中での日本人として、自らの道を切り開いていく積極的な人材であることも重要なこと。それには、「その場に依じてリーダーシップを発揮したり、メンバーとしての役割を果たせる人」であることも求められます。

こうしたさまざまなことを、“行うことによって学べる” ようになっているのが、ベンチャー章、隼、富士の3段階の進歩課程と、8つの分野のプロジェクトです。

進歩課目では、奉仕活動を通じた社会の一員としての訓練や、スカウト精神、野外活動技術といったスカウトに求められる知識・技能・心構えが、選択課目のベンチャープロジェクトでは、自らの創意工夫で活動を作り上げていくことでの自己啓発や自立心の育成、協調性やリーダーシップなどのトレーニングが自然と身につくプログラムとなっています。したがってベンチャープロジェクトでは、活動のテーマを広い分野から求め、自分の現在の能力と希望に合ったプログラムをベンチャーリーダーに援助してもらいながら、自ら作り上げていくことが大切になります。

2. ベンチャースカウト活動の「目標」

日本連盟では、ベンチャースカウト活動の目標を次のように定めています。

- 「ちかい」と「おきて」の実践に励み、信仰を深める。
- 各種の文化的及び社会的活動に参加し、自ら計画したプロジェクトを達成する。
- 野外活動を通して自らの健康の増進を図り、自己の確立を目指す。
- 指導者の援助を得て、各種身体的活動に挑戦する。
- 他の人々への理解を深めるとともに、奉仕の精神を身に付け、団や他の部門の隊への協力と地域社会に対する奉仕に努める。
- 協調性とリーダーシップを養うとともに、社会の一員としての自覚を深める。
- 国際組織の一員として、国際活動、国際協力について学び、実践する。

活動の目標を端的に言い換えると次のようになります。

【活動目標のキーワード】

- 「ちかい」と「おきて」の実践
- 自分で計画したプロジェクトの達成
- 自己の確立
- 体力的な活動への挑戦
- 奉仕の精神の修得
- 協調性とリーダーシップの養成
- 社会の一員としての自覚
- 国際理解を深める

自らが計画し、実施して積み重ねていく活動の結果や成果、または失敗などが、あなたの人生にどのような意味や力をもつのか、今すぐにはわからないことだろうと思います。しかし、あなたが社会に出て仕事をもち家庭を築いたときに、ベンチャースカウト活動を経験してよかったと思うときが必ず訪れることでしょう。ですから、今は、いろいろな活動に一所懸命に取り組み、それを楽しむことです。

ここで、ベンチャースカウトとして活動を行っていくためのいくつかのアドバイスをしましょう。

スカウトの目標は、「ちかい」と「おきて」に基づいた活動を日常生活の中で実践することであり、自分や周りの人々に誓ったことを実現することです。そして、自分の人生や社会をより良い、楽しいものに築いていくことです。自分の理想を追い求めることが、同時に社会のために役立っていくような人間になることです。そのための基礎を作ること、それがベンチャースカウト活動なのです。

自分がどのような活動を選ぶか、そのためにどう計画し、行動するか、結果をどう評価するか、どれも自分自身が行うことです。これから先の一生、いろいろなことがあるはずですが、最終的にはあなた自身で判断し、行動するしかありません。単に遊ぶことでさえ、自分で遊びを選び、自分から積極的に遊んだ方が、人から与えられた遊びを、人のあとについてやるよりも何倍も面白く楽しいという経験をしたことはありませんか？ 用意されたプログラムに従って活動するのではなく、「自分自身で活動を作り上げ、挑戦し、成果をあげること」の楽しさは格別です。

自分の人生をどうやって楽しく充実させるか、その秘訣をベンチャー活動で発見してください。ベンチャースカウトにはそれができます。

そこでまず、ベンチャースカウトとして充実した活動を行っていくために進歩課目に挑戦することから始めます。進歩課目は、ベンチャースカウト一人ひとりに自分の可能性を伸ばす機会を与えてくれます。この進歩課目は、ベンチャースカウトにとって共通の課目が示されていますが、実際に課目の挑戦を行っていくと、さまざまな選択があり、同じように見える課目も、一人ひとりのスカウトによって多様な展開となります。

そして、これらの体験を繰り返していくことによって、「自分で考え、自分で行動する」機会が増えていくはずですよ。

ベンチャー章、隼、富士という進歩課目を「富士登山」に例えると、ベンチャー章は富士山に登るための準備、富士山のふもと、登山口に立った状態です。そして、隼スカウトが、身につけた高度な技術を屈指して頂上を目指している状態。ついには頂上に到着し、精神的にも大きな成長を遂げ、次なる未踏峰を目指す決意に燃えているのが富士スカウトといえます。ベンチャースカウトになったら、まず富士山の頂上を目指してください。富士山に登ることによって、たくさんのことを学び、

さらに頂上に至ることで、大きな自信をもつことができるはずで

す。そして、富士山は日本で一番高い山ですが、世界にはもっと高い山もあります。また、登山ということでは、高さが低くても、より高度な技術がないと登れない山はたくさんあります。富士スカウトは、進歩課程の最終目標であり到達点ですが、スカウト活動の終着点ではありません。異なる次のステージへとステップアップするためのひとつの到達点なのです。富士山に登った後、つまり、富士スカウト章を受章した後も、ぜひ、いろいろな山（さまざまな挑戦）を目指してみてください。

「富士」という言葉は、「最高峰」「一番」という意味で使われますが、古くは「不二」と表記されていました。この世に二つとないもの、唯一のものという意味です。富士スカウト章は、たくさんのスカウトが受章していますが、この章はそれぞれのスカウトが歩んできたスカウティングの集大成であり、受章したスカウトそれぞれに違う意味をもつもの。つまり富士スカウト章とは、スカウトの最高位、進歩課程の到達点という意味での「ナンバーワンの章」であると同時に、スカウト自身の「オンリーワンの章」でもあります。



ベンチャーの活動

「ベンチャープロジェクトの分野」

ベンチャー活動には活動の目標にそった8つのプロジェクトの分野が設定されています。プロジェクトが達成されると、その証として「プロジェクトバッジ」が授与されます。

1. 社会・地球環境



社会の一員として、どんな取り組みができるかを考えて実行します。環境保全、ゴミ問題、薬物乱用、エイズなど、広く社会に関わる問題や地域社会への貢献などです。

2. 国際文化



国際社会の一員として、これからの世界でどのような提案をしていけるのでしょうか。世界の中の日本、世界の中の自分を知る活動から始めます。海外派遣、国際理解、海外ボランティアなどがあげられます。

3. 高度な野外活動



ベンチャーの年代ならではの冒険に満ちた活動が待っています。フリークライミング、シーカヤック、パラセーリング、サバイバルキャンプ、ログキャビンビルダー、スクーバダイビングなどです。

4. 体力づくり・スポーツ



学校の体育系のクラブで成果をあげたり、武道に励んだりして体力づくりやスポーツ活動に積極的に取り組みます。

5. 文化活動



地域での伝統文化の伝承や研究、学校での文化的活動の取り組みを進めていきます。

6. 専門・得意分野の探求



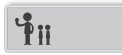
自分の得意なものや専門的なものをプロジェクトの課題にします。特に社会に認められているものに挑戦することであなたの人生設計に役立つこともできます。

7. 奉仕活動



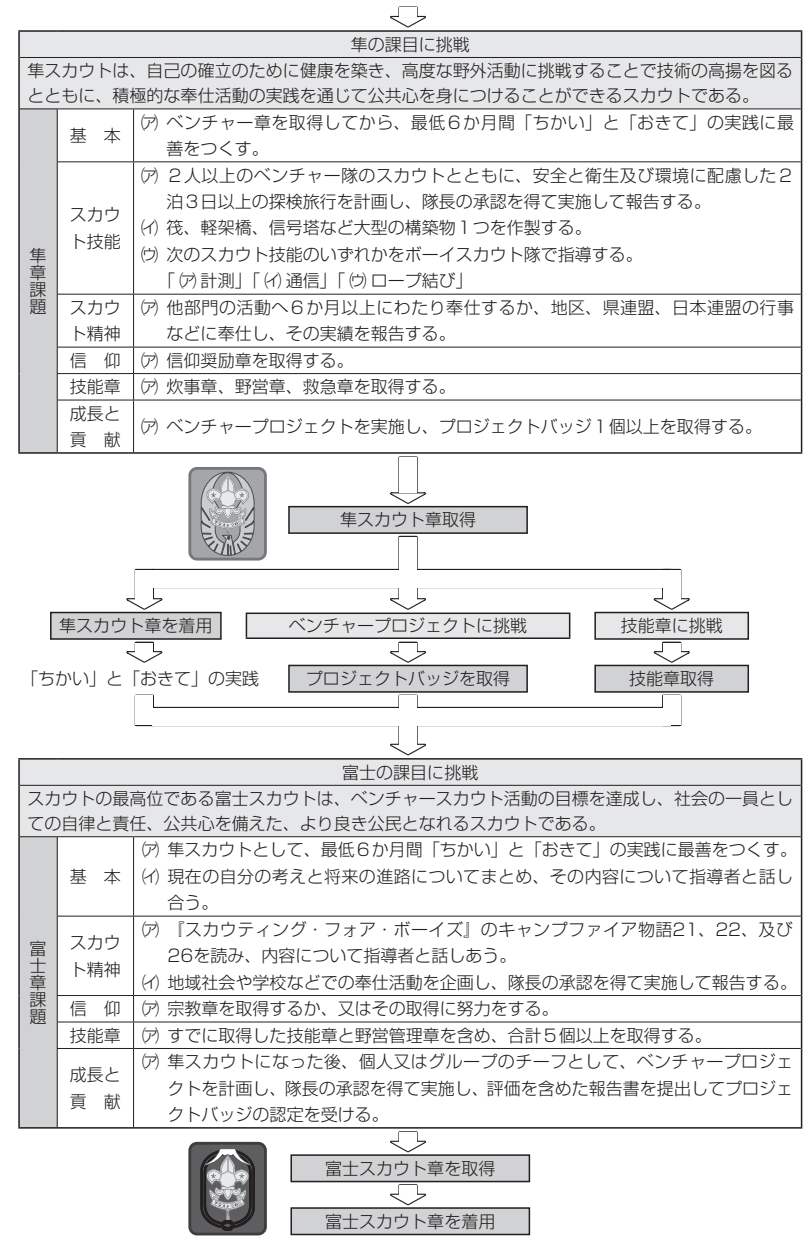
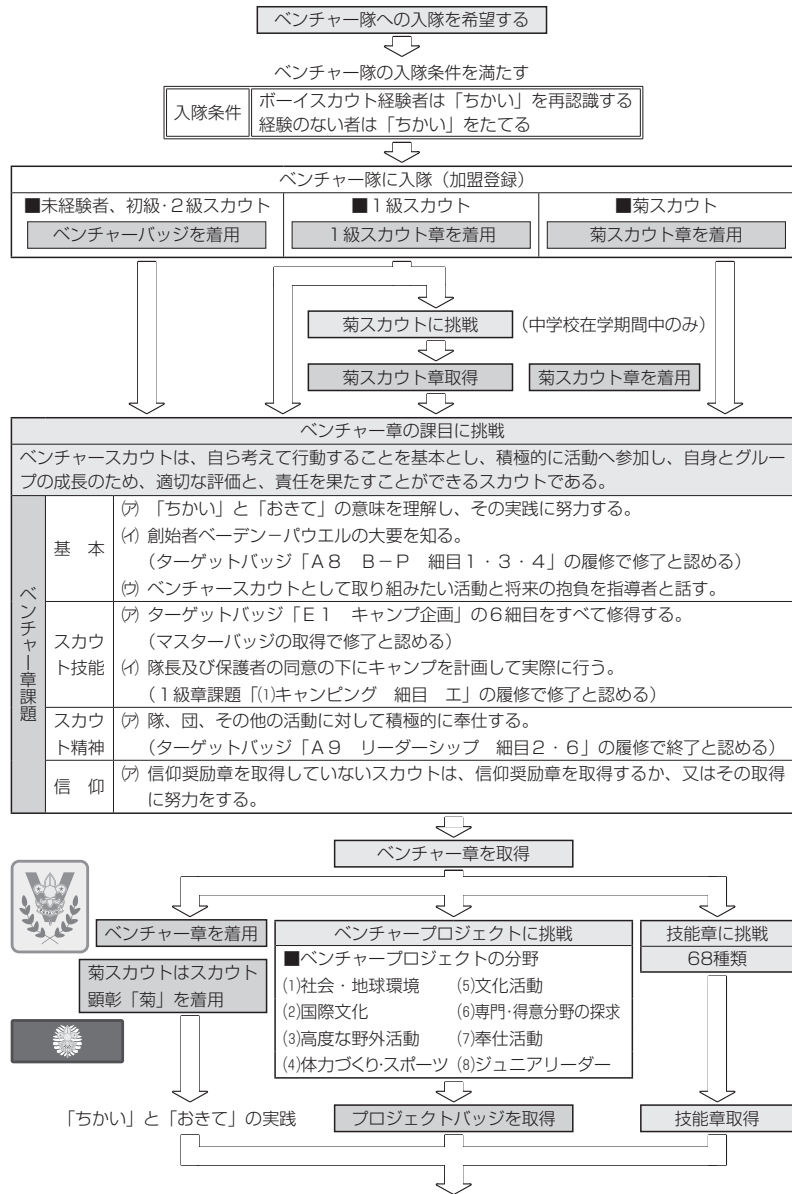
ベンチャーでは、より本格的な奉仕活動の展開が可能です。体験としてだけでなく、実際に社会に役立つ活動を行います。

8. ジュニアリーダー



所属団や友好団のビーバー・カブ・ボーイ隊でベンチャースカウトとして継続的に奉仕し、後輩の指導にあたるほか、団の運営に協力します。

<ベンチャーの進歩制度>



3. ベンチャースカウトになるには

■ベンチャースカウトの対象年齢

中学3年の9月から、18歳の3月31日までの間であれば、誰でもベンチャースカウトの活動に参加することができます。ボーイスカウト隊からの上進者でなくとも、ベンチャースカウトから活動を開始することができます。

また、18歳になったスカウトは、本人の希望と団の調整によりローバー隊へ上進することができるほか、そのまま18歳の3月31日までベンチャー隊にとどまり、ベンチャースカウトとして活動することもできます。

■ベンチャー隊の入隊条件

ベンチャー活動に参加しようとする者は、ボーイスカウト経験のある者は「ちかい」の再確認を、経験のない者は「ちかい」をたてることで、ベンチャースカウトになれます。

<入隊条件>

対象年齢の青年は、入隊に際し、ボーイスカウト経験のあるものは「ちかい」を再確認して、ボーイスカウト経験のないものは「ちかい」をたてて、ベンチャースカウトとなる。

<ボーイスカウト経験者>

「ちかい」の再確認については、隊集会や上進式などのセレモニーの際に隊員たちの前で再確認し、ベンチャー隊長の承認を受けます。

<スカウト経験のない者>

新たにスカウト活動を始める者は、入隊条件として次の項目を行います。

- 「ちかい」の文章を覚え、「ちかい」と「おきて」の意味を知る。
- 入隊式などのセレモニーで、隊員たちの前で「ちかい」をたて、隊長の承認を受けます。

入隊の時期は各団において定めます。また、事前の説明を聞いて所定の登録費・隊費などを納入するほか、「ベンチャースカウトハンドブック」の第1章をよく読み、活動の概要を確認しておきます。

以上の条件をクリアーすると、ベンチャー隊に入隊することができます。

スカウトの「ちかい」

私は名誉にかけて次の三条の実行をちかいます

- 一. 神（仏）と国とに誠を尽くしおきてを守ります
- 一. いつも他の人々を助けます
- 一. 身体を強くし、心をすこやかに徳を養います

スカウトの「おきて」

1. スカウトは誠実である

- ・スカウトは信頼される人になります。
真心をこめて、自分のつとめを果たし、名誉を保つ努力をします。

2. スカウトは友情にあつい

- ・スカウトはきょうだいとして仲よく助け合います。
すべての人を友とし、相手の立場や、考え方を尊重し、思いやりのある人になります。

3. スカウトは礼儀正しい

- ・スカウトは、規律正しい生活をし、目上の人を敬います。
言葉づかいや服装に気をつけ、行いを正しくします。

4. スカウトは親切である

- ・スカウトは、すべての人の力になります。
幼いもの、お年寄り、体の不自由な人をいたわり、動植物にもやさしくします。

5. スカウトは快活である

- ・スカウトは、明るく、朗らかに、いつも笑顔でいます。
不平不満を言わず、元気よく、進んでものごとを行います。

6. スカウトは質素である

- ・スカウトは、物や時間を大切にします。
むだをはぶき、ぜいたくをせず、役立つものは活用します。

7. スカウトは勇敢である

- ・スカウトは、勇気をもって、正しく行動します。
どんな困難なことがあってもくじけずに、新しい道をきり開きます。

8. スカウトは感謝の心を持つ

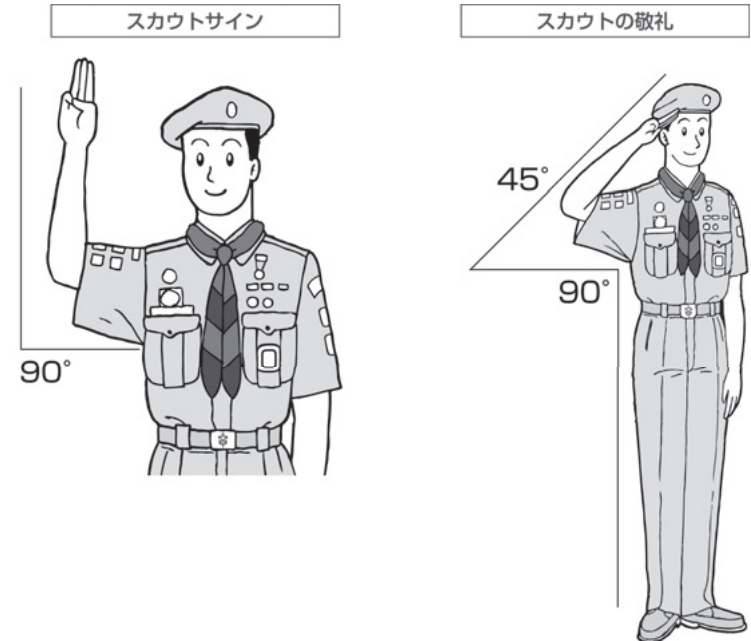
- ・スカウトは、信仰をあつくし、自然と社会の恵みに感謝します。
お礼の心で、自然をいつくしみ、社会に奉仕します。

<解説>

1. どんなことでも、真心をこめて、ていねいに行えば、よい結果が得られます。そして人から喜ばれ、信用が増し、信頼されます。
それぞれの場所で与えられたつとめを誠実に果たすことで、社会に役立つ人間になれます。
2. 信頼できる友を得ることは、人生を豊かにし、幸福にします。友情の広がりにはスカウト仲間との活動から始まります。
3. あいさつ、言葉づかい、清潔で気持ちのよい服装、時間を守ることなどを心がけます。これは、相手を敬う気持ちの表れであり、仲間や目上の人、後輩に認められ受け入れられる基本となります。
4. 困っている人や弱い立場の人に力を貸すことができるよう、日頃から心の準備をし、技能を磨いておきます。助けを必要とする人に手をさしのべることはスカウトとして当然ですが、自分の幸福にも大きくつながります。動植物に対しても同様です。命あるものとして、ともにこの地球に生きる仲間だからです。
5. おおらかで、ユーモアのセンスがある者は、困難なときでも仲間や自分を励ますことができるので、厳しい状況でもくじけません。『スカウティング・フォア・ボーイズ』にも「スカウトはどのような困難に出会っても快活、笑って口笛を吹く」とあります。
6. キャンプなどの野外活動では、生きるために本当に必要な物が思ったより少ないことや、足りない物も工夫次第でなんとかなることがわかります。物や与えられた時間には限りがあるから、むだにしないで、よく考えて大切に使います。
7. 困難で気おくれするようなことに直面しても、ひるまず打ち勝てるように、日頃からベンチャー活動をとおして未知のものに挑戦し、正しい判断力を養うよう準備しておきます。
8. 人は自然と社会の恩恵がないと生きられません。忘れがちなことですが、これは事実です。自然と社会に感謝するとともに、友人、先輩、後輩、保護者など、君をおもいやってくれるたくさんの人たちに感謝します。感謝ははっきり言葉に表して相手に伝えます。「ありがとう」「ごめんなさい」「いただきます」「ごちそうさま」などの言葉は日常の人間関係を良くし、潤いを与えます。

4. ボーイスカウトの基本を再確認しよう

(1) スカウトサイン、スカウトの敬礼、スカウトの握手



《スカウトの握手》

左手



(2) モットー、スローガン、スカウト章

スカウトのモットー
そなえよつねに
 スカウトのスローガン
日日の善行



日本のスカウティングの理想と目的を形に表したものが、このスカウト章です。全体の形は世界共通ですが、その一部分にその国特有のデザインを入れて、その国のボーイスカウトであることを表しています。

日本のスカウト章には、3つの花びらの中央に日本古代の鏡の図案を取り入れて表しています。

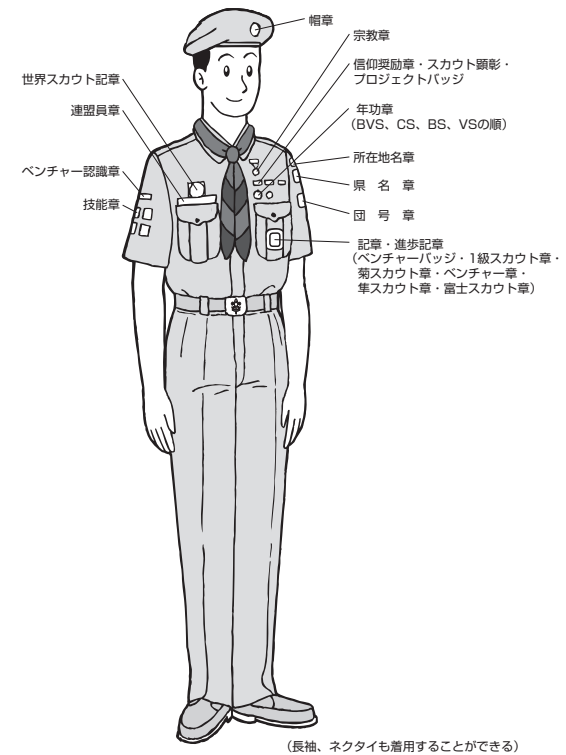
日本のスカウト章は次の6つの部分からできています。

- ①ユリの3つの花びらからなる「花形」とコンパスの「針」
 - ・3つの花びらは「スカウトのちかい」を、コンパスの「針」は正しい人生の進む方向を示す。
- ②左右の花びらに各1個ずつの「星」
 - ・真理と知識を表す。また、夜空に輝く星として野外活動を表す。
- ③中央に1面の「日本古代の鏡」
 - ・優れた知性と反省を表す。
- ④花びらを束ねた「ロープ」
 - ・協力・共同を表す。

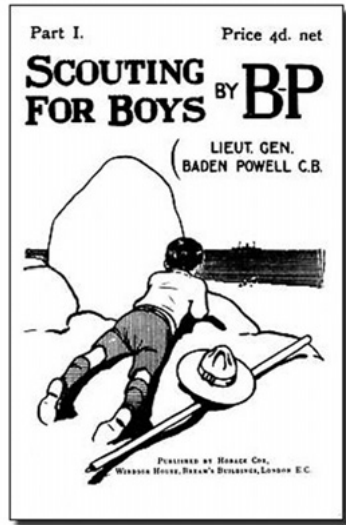
- ⑤花びらの下にモットーをしるした、広げられた「巻物」
 - ・モットーの「そなえよつねに」を実行する姿勢を表し、巻物の形はスカウトの微笑んだ口元を表す。
- ⑥巻物の中央下に下がった結び目のある、スローガン「日日の善行」を思い起こす「ひも」
 - ・一日の始めにネッカチーフの下端に結び目を作り、善行を行ったら、その結び目を解くことで実践を表す。

(3) ユニフォーム

ベンチャースカウトの正装（記章類・標章の着用基準）



(4) 『スカウティング・フォア・ボーイズ』とは



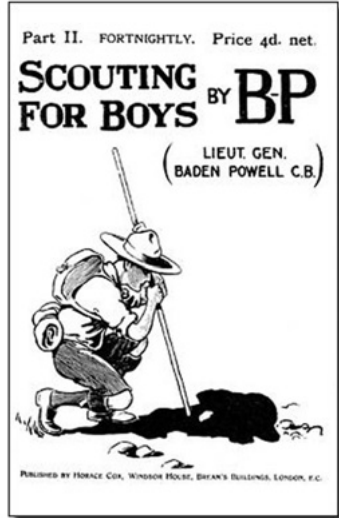
あなたは『スカウティング・フォア・ボーイズ』を読んだことがあるでしょうか？

ロバート・ベーデン-パウエル卿 (B-P) が1907年8月にイギリスのブラウンシー島で20人の少年と実験キャンプを行ったことからボーイスカウト運動は始まりました。このキャンプの成功をもとに1908年に出版されたのがこの本『SCOUTING FOR BOYS』で、いわばボーイスカウト運動の原典です。

人間としての生き方、特にあなたたちの人格や価値観を形成するうえで非常に参考になると思います。

また、プログラムのヒントとなるものがたくさんあります。一つひとつページをめくっていくと、100年前に書かれたものとは思えないほどの新鮮味あふれる内容を楽しむことができます。

この本でボーイスカウト活動の持つ意味が一層理解できると思いますので、一度じっくり読んでください。



5. 進歩課目「ベンチャー章」にチャレンジ

ベンチャー章の課目を履修することで、次のようなスカウトになることを目指します。

ベンチャースカウトは、自ら考えて行動することを基本とし、積極的に活動へ参加し、自身とグループの成長のため、適切な評価と、責任を果たすことができるスカウトである。

ベンチャー隊に入隊したみなさんは、ベンチャー章の課目に取り組むこととなりますが、ボーイスカウト経験の有無、ボーイスカウトでの進歩課程によって、制服に着用する進歩記章が異なります。

2級スカウト以下と、ボーイスカウト経験のない者はベンチャーバッジを着用、1級スカウトは1級スカウト章、菊スカウトは菊スカウト章を着用してベンチャー章の課目に挑戦します。また、1級スカウトはベンチャーに上進後も、中学校在学の間は引き続き菊スカウトへチャレンジすることを選択できます。

ベンチャー章課目修了後は、ベンチャー章を着用して、ベンチャープロジェクトへの挑戦や、隼スカウトを目指すこととなりますが、菊を取得しているベンチャースカウトは、県連盟よりスカウト顕彰「菊」を授かり着用して活動します。

ボーイスカウト経験のない者は、進歩課目のすべてをクリアする必要がありますが、ボーイスカウト経験者は、ターゲットバッジや1級スカウト章の取得の際に修得している課目も多いはずですが、その場合は、残りの課目を履修することで、ベンチャー章を取得することができますが、認定にはベンチャーにふさわしいレベルでの修得が求められます。

■ベンチャー章の課目は以下のとおりです。

① 基 本	(ア) 「ちかい」と「おきて」の意味を理解し、その実践に努力する。 (イ) 創始者ベーデン・パウエルの大要を知る。 (ターゲットバッジ「A-8 B-P 細目1・3・4」の履修で修了と認める) ・A8-1 ボーイスカウトの創始者ロバート・ベーデン・パウエル (B-P) の生涯について知り、隊集会、班集会または家族に話をする。 ・A8-3 スカウト運動の、世界と日本の歴史を知り、隊集会、班集会または家族に話をする。 ・A8-4 「スカウティング・フォア・ボーイズ」の興味のあったところの感想文を書く。 (ウ) ベンチャースカウトとして取り組みたい活動と将来の抱負を指導者と話す。
② スカウト技能	(ア) ターゲットバッジ「E1 キャンプ企画」の6細目をすべて修得する。 (マスターバッジの取得で修了と認める) ・E1-1 キャンプ地に選んではいけない場所・地域について説明する。 ・E1-2 キャンプ中の危険防止と衛生を保つ方法を説明する。 ・E1-3 2泊3日のキャンプに必要な個人携行品一覧表を作成し、正しくパッキングを行う。 ・E1-4 班キャンプを実施するために必要な事項を調査し、計画書を作成する。 ・E1-5 キャンプ終了後にしなければならないことを説明する。 ・E1-6 キャンプにおける荒天対策を説明する。 (イ) 隊長及び保護者の同意の下にキャンプを計画して実際に行う。(1級章課題「(1) キャンピング 細目エ」の履修で修了と認める) ・(1)-エ 隊長及び保護者の同意の下にキャンプを計画し実際に行う。
③ スカウト精神	(ア) 隊、団、その他の活動に対して積極的に奉仕する。 (ターゲットバッジ「A-9リーダーシップ 細目2・6」の履修で終了と認める) ・A9-2 学校の自治会や部活動等に積極的に参加し、できれば役員、委員等をつとめる。 ・A9-6 隊活動に積極的に参画する班長、次長、上級班長、隊付等をつとめる。(隊長が同等と認めた場合は、上記役務に限らない)
④ 信 仰	(ア) 信仰奨励章を取得していないスカウトは、信仰奨励章を取得するか、又はその取得に努力をする。

①基本：(ア) 「ちかい」と「おきて」は、スカウト活動の基本となる部分です。ベンチャー隊に入隊をしたこの機会に、スカウト書籍やスカウト手帳の記述を読むなどして理解をすすめて、実践とはどういうことかをいま一度考えたうえで、日々その実践に努めましょう。

また、(イ) のベーデン・パウエル卿の生涯、世界と日本でのスカウト運動の歴史についても、第三者に説明ができるようにしておきましょう。

そして、(ウ) については、ベンチャーという新たなステージに立っているいま、ベンチャースカウトとしてどのようなプログラム、プロジェクトを実施したいか、さらには、将来どのような大学に進みたいとか、どのような職業につきたいかなどを隊長と話します。また、「自分の夢」と題した現在の想いを、レポートに残しておくことを勧めます。そのレポートに隊長の感想などを記入してもらうことで、自分の頑張る元となるでしょう。

なお、課題①の (イ) については、具体的にはボーイ部門のターゲットバッジ「B-Pの細目1・3・4」の履修を修了することで認定とします。すでにボーイ隊で履修済みの場合は、隊長認定のもと、履修済となりますが、上進(入隊)を機に、スカウティング・フォア・ボーイズをいま一度、熟読してみることを推奨します。

②スカウト技能：スカウティングは自然のなかが主な活動場所です。これまでに得た経験を元に、キャンプを企画してみてください。

(ア) に関しては、ボーイスカウトで「キャンプ企画」のターゲットバッジの取得時に認定を受けた細目に関しては履修済みに読み替え、マスターバッジを取得した者は全課目修了と認定されますが、ベンチャースカウトとしての立場で、もう一度、考えてみる必要があるです。

そして、自らの計画をもとに実際にキャンプを行います。1泊でも2泊以上でもかまいませんが、できれば単独(ソロキャンプ)で実施しましょう。安全対策上、数名で実施するような場合は、単独キャンプの雰囲気を楽しむような環境をどのように整えるかがポイントになります。このキャンプでは、豊かな自然に恵まれた環境のなかで、自然と自分が向かい合う場面をつくり、日常あまり意識していないことがらについて、心静かに思いを巡らす時間を必ずとるようにします。

ボーイスカウトの1級章取得の際に隊長および保護者の同意を得て

キャンプの計画・実行を行ってれば、この課目をスキップすることもできますが、自ら考え自発的に積極的な行動が求められるベンチャースカウトとしての最初の一步として、またベンチャーとしての自覚の確認の意味でもぜひとも取り組んでください。

- ③スカウト精神：ベンチャースカウトには、自ら考え行動することが求められると同時に、自身とグループの成長のために適切な評価と、責任を果たすことが求められています。あなたがこれまでのスカウト活動で得た経験や技能を、ベンチャー隊での隊活動はもちろん、ボーイ隊や、学校の自治会、部活動で発揮すること、さらには、自発的、積極的な行動で組織やグループを牽引していくリーダーシップがベンチャースカウトには求められています。
- ④信仰：ボーイスカウトのルールブックでもある日本連盟教育規程集には、「加盟員がそれぞれの明確な信仰を持つことを奨励する」と書かれていますが、ベーデン-パウエル卿のさまざまな「ことば」や「おきて」の一節を引用するまでもなく、スカウティングと信仰には深いつながりがあります。

では、「信仰を持つ」との意味は、どういったものなのでしょう？教育規程で示されているのは、「自分が信じる宗教を明確にする」といった意味です。

日本では宗教と信仰という言葉の意味合いに少し違いがあるかも知れません。日本で宗教とは「一定の神仏が明確であり、その教えに則って生活をしていく」ことであり、信仰とは「明確な神仏は特定されなくとも、神仏もしくは目に見えない創造主などの存在を信じ、世界はそれらによって作られ、その作られた自然からの恩恵で人は生かされていること。その恩恵は人々の善意がベースとなっていて、そうした心と行為で生活は成り立ち、自然や人の心は人間の意思では自由に動かすことができないと考える心」が信仰心とされています。

こうした心を高め、自分にとってふさわしい神仏に出会い、さらには明確な宗教をもつことが、信仰奨励章の目的です。宗教との出会いは他人から強要されることなく、自ら求めて行くもの。自然なプロセスを経た宗教との出会いを願っています。

以上のすべての課目の修了を隊長から承認され、団面接を経ることで、団よりベンチャー章が授与されます。

6. 進歩課目「隼」にチャレンジ

隼の課目を履修することで、次のようなスカウトになることを目指します。

隼スカウトは、自己の確立のために健康を築き、高度な野外活動に挑戦することで技術の向上を図るとともに、積極的な奉仕活動の実践を通じて公共心を身につけることができるスカウトである。

ベンチャー章を取得したスカウトが取り組む次のステップが隼の課目です。また、ベンチャー章取得後は、選択課目のベンチャープロジェクトへの挑戦も可能となり、達成後にはプロジェクトバッジが取得できます。隼スカウトになるには、このプロジェクトバッジの取得が必須となります。したがって、ベンチャー章取得後は、早期にプロジェクトのテーマを設定し進めることが、隼スカウト章取得への足がかりとなります。

隼スカウトには、プロジェクトを進めるなかでの自己の成長や確立、高度な野外活動に挑戦することでの技術の向上、他部門の活動や地区・県連盟・日本連盟の行事での奉仕活動を通じての公共心の育成が求められています。したがって、「ちかい」と「おきて」の実践はもとより、プロジェクト、野外活動、奉仕活動の3つを柱にしてスカウティングに取り組む必要があるといえるでしょう。

■隼の課目は以下のとおりです。

① 基 本	(ア) ベンチャー章を取得してから、最低6か月間「ちかい」と「おきて」の実践に最善をつくす。
② スカウト技能	(ア) 2人以上のベンチャー隊のスカウトとともに、安全と衛生及び環境に配慮した2泊3日以上探検旅行を計画し、隊長の承認を得て実施して報告する。 (イ) 筏、軽架橋、信号塔など大型の構築物1つを作製する。 (ウ) 次のスカウト技能のいずれかをボーイスカウト隊で指導する。 「ウ」計測 「イ」通信 「ウ」ロープ結び
③ スカウト精神	(ア) 他部門の活動へ6か月以上にわたり奉仕するか、地区、県連盟、日本連盟の行事などに奉仕し、その実績を報告する。
④ 信 仰	(ア) 信仰奨励章を取得する。

⑤ 技能章	(ア) 炊事章、野営章、救急章を取得する。
⑥ 成長と貢献	(ア) ベンチャープロジェクトを実施し、プロジェクトバッジ1個以上を取得する。

- ①基本：「ちかい」と「おきて」は、常にスカウト活動の基本です。それは、隼に挑戦する際にも変わりません。心身ともに健康で健全な日常をおくるためには、どのような生活目標をたて、達成にむけて努力しているかを隊長と話し合い、最低6か月間「ちかい」と「おきて」の実践に最善をつくしたことを、隊会議および隊長に認めてもらいましょう。
- ②スカウト技能：ベンチャースカウト活動の目標のひとつが、野外活動を通じて自らの健康増進を図り、自己の確立を目指すことにあります。そのため、スカウト技能では自然のなかで安全にキャンプを行う知識やノウハウが求められます。自然は、私たちのいろいろな能力を高める力をもっていますが、そのひとつとして、危険に対応する力を高め続けています。野外で小さな危険を体験し、それを積み重ねることで大きな危険に対しても耐え、防御する力が身につきます。野外での安全の原則は次の3つがありますが、これはもちろん、どのような場所であってもあてはまります。

【安全の三原則】

1. 先取優位の原則
安全は常に先取りされており、すべてに優先する。
2. 自守原則
自分の安全は自分で守る。
3. 規範・道徳の原則
ルールを守る。

このことに留意して探検旅行にトライしましょう。探検旅行とは、別の言い方をすれば、遠征とか冒険（アドベンチャー）旅行、つまり遠方へ出かけての活動を意味します。はじめての場所を地図を頼りに訪れ、知らない人に出会って話をする「探検」の旅行であることが要件であり、野営や固定キャンプ、移動キャンプでなければならないと

いった、決まりはありません。移動キャンプをしながらの史跡めぐり、サイクリングツアー、ゴムボートや手製の筏での川下り、縦走を目的にした登山、キャンプ場を利用したトレーニングキャンプなど、それが単なる遊びやレクリエーションではなく、調査、研究、探検、自己の技能や体力を試すといった、ベンチャースカウトにふさわしいテーマに沿って計画、準備され、実施されていれば探検旅行です。

また、「衛生に配慮する」とは、野営・舎営の用便、ゴミ処理、食料保存、ハエ・蚊対策などについて知り、実行できること。「環境に配慮する」とは、自然破壊、環境汚染などに配慮し、使用する前以上の美化を心がけ実行できることです。

さらに、(イ)の構築物の作製や(ウ)の項目のボーイスカウトへの指導といったスカウト技能も隼スカウトには求められます。計測、通信、ロープ結びに関しては、ターゲットバッジのそれぞれの細目をマスターするだけでなく、実際に活用し指導できるスキルを身につけておくことが必要です。「指導」とはボーイ隊員が教えた技術を実際に一人でできるようになったかを問われていますが、隊員が覚えやすかったどうかも重要なポイントです。

- ③スカウト精神：ただ単に奉仕活動に参加するのではなく、奉仕活動の意義について考え、助け合いの精神や思いやりの心を育みながら、社会の一員として貢献できる力を養うことこそ、ベンチャースカウトに求められる奉仕の姿です。

スカウティングにおける奉仕活動には、カブ隊、ボーイ隊といった団内の他部門への奉仕と、地区や連盟で行う行事などの奉仕があります。これまでに受けたあらゆる恩恵に感謝し、報いるために、ボーイスカウトの組織内での奉仕の実践を行いながら、徐々に高度な奉仕ができるスキルを身につけましょう。また、実績を詳細に報告し、自分がどれだけ成長できたかを評価してみましょう。

- ④信仰：隼スカウト章取得には、信仰奨励章取得が必須となります。取得はスカウツオウン・サービスに取り組むことから始まります。スカウツオウン・サービスとは、以前はサービス（Service）を省略してスカウツオウン（Scouts' Own）と呼んでいた、スカウトが自分たちで進める礼拝のことです。ただし、信仰奨励章を取得する際には、隊集会やハイキング、キャンプなどで隊長が主宰するものが前提になります。スカウツオウン・サービスを通して宗教心を高めると同時に、

自分自身にふさわしい宗教をみつけ、さらに信仰を深めて宗教章取得へとつなげましょう。また、すでに宗教章を取得している場合でも、信仰奨励章は取得しなければなりません。各教宗派の礼拝の作法に基づいたスカウトOWN・サービスを積極的に実施してください。

- ⑤技能章：技能章は、炊事章、野営章、救急章の3つが必須となります。これらの内容は探検旅行を企画し実施する際に必要となる事項が多いはず。探検旅行の実施前に取得しておくことを推奨します。
- ⑥成長と貢献：いよいよベンチャープロジェクトへの挑戦です。ベンチャースカウト活動の目標に沿って設定された8つのプロジェクトの分野（7ページ参照）からひとつを選び、自己の成長や社会に役立つための課題を設定して、隊長の承認のもと、プロジェクトを企画・計画・実施し、自身で評価・反省を行うことで、バッジを取得します。重要なのは、設定したテーマに対し、自分で考え、行動し、責任をもって実践するということです。

<ベンチャープロジェクトとは>

- 明確な目標、期間などを自ら設定し（企画）、
- そのための具体的な方法を計画し、
- 実施し、評価をする。

この一連のサイクルを達成することです。それによって、自分の知識・技能・心構えを段階的に成長させていきます。

<ベンチャープロジェクトの要件>

- 継続性があること
- 社会性があること
- 独創性に富むこと
- 本人の生活意識が高揚されるもの
- 本人の技能が、開発されたり、向上すること

以上の内から2つの条件を満たすことが必要とされます。

次のようなことも、事前に課題を設定して行うことでプロジェクトとして成立します。

- 他部門への少なくとも6か月以上の主体的な奉仕
- 日本連盟、県連盟主催の大会、または国際的な大会参加

- 県連盟、地区主催の大会の運営要員として任務遂行
- スカウト関係以外の公式大会、協議会で一定の評価を得る
- 地方の文化活動に参加し、一定の評価を得る
- 公的資格の取得
- 地区単位以上のベンチャーフォーラムで指導的役割を果たす

以上のすべての課目の修了を隊長から承認され、団および地区の面接を経て県連盟に申請することで、授与式において隼スカウト章が授与されます。

7. 進歩課目「富士」にチャレンジ

富士の課目を履修することで、次のようなスカウトになることを目指します。

スカウトの最高位である富士スカウトは、ベンチャースカウト活動の目標を達成し、社会の一員としての自立と責任、公共心を備えた、より良き公民となれるスカウトである。

隼スカウトへのステップアップが果たせたなら、富士スカウトへの挑戦はさほど難しいことではないはずです。「ちかい」と「おきて」を実践しながら、一步步階段を登っていけば、スカウトの進歩課程の最高位の富士スカウトに、必ず到達できることでしょう。それには、新たなプロジェクトに着手することも必要ですが、富士スカウトに求められるのは、ベンチャースカウト活動の目標の達成です。これまでに行ってきた信仰やプロジェクトへの取り組み、野外活動のスキルアップとそれらを通しての自己の確立、組織内での奉仕はもちろんのこと、地域社会への奉仕、社会の一員としての自覚や、国際組織の一員として、国際活動、国際協力について学ぶことが必要となるなど、「社会で役立つ技能・国際感覚を身につけ、自分で考え、自分で行動する青年」であることが求められます。

■富士の課目は以下のとおりです。

① 基本	(ア) 隼スカウトとして、最低6か月間「ちかい」と「おきて」の実践に最善をつくす。 (イ) 現在の自分の考えと将来の進路についてまとめ、その内容について指導者と話し合う。
② スカウト精神	(ア) 『スカウティング・フォア・ボーイズ』のキャンプファイア物語 21、22、及び26を読み、内容について指導者と話しあう。 (イ) 地域社会や学校などでの奉仕活動を企画し、隊長の承認を受けて実施して報告する。
③ 信仰	(ア) 宗教章を取得するか、又はその取得に努力をする。
④ 技能章	(ア) すでに取得した技能章と野営管理章を含め、合計5個以上を取得する。
⑤ 成長と貢献	(ア) 隼スカウトになった後、個人又はグループのチーフとして、ベンチャープロジェクトを計画し、隊長の承認を得て実施し、評価を含めた報告書を提出してプロジェクトバッジの認定を受ける。

①基本：富士スカウトは最高位であると同時に、進歩課程の到達点です。毎日の「ちかい」と「おきて」の実践に加え、これまでの活動で得たこと、学んだことをベースに、文章にまとめて、隊長と話し合います。自分の考えや将来の進路が、ベンチャー章課目でレポートしたことからどう変わったか。または、変わることなく、これまでの夢や目標にまい進しているか。そのレポートに隊長の感想などを残してもらえば、後々自分への励げみとなることでしょう。同時に、最低6か月間「ちかい」と「おきて」の実践に最善をつくしていることを隊会議および隊長に認めてもらいましょう。

②スカウト精神：スカウティング・フォア・ボーイズは、いわばボーイスカウトの原典です。富士では、キャンプ物語21-「自己修練」、22-「修養」、26-「公民の資格」の内容について指導者と話し合うことが課題となっています。ここに書かれているのは、スカウト運動の原理でもあります。ベンチャースカウト活動の目標を頭に入れたうえで熟読してみましょう。

また、富士取得には、ボーイスカウト以外の組織での積極的な奉仕活動が求められます。他人の幸福を自分の幸福以上の喜びとする思いやりの心と、社会をよりよくして後世に残そうとする善意の心の持ち

主こそが、社会の一員としての自立と責任、公共心を備えた、良き公民です。自分（たち）は今なにがしたいのか、なにができるのか、なにをしなければいけないのかを考え、社会に認められる内容かどうかを十分に吟味したうえで、これまで身につけた知識や技能を他の人や社会のために役立ててください。参考までに地域社会への奉仕の一例をいくつかあげておきましょう。

種類	例
市町村のお祭りや行事	旗揚げ、交通整理、プラカード持ち、清掃、スタッフ補助など
緑化運動	募金、植樹、下草刈り、樹木の名札付け、公園の雑草取り、間伐材の伐採など
交通事故防止キャンペーン	シートベルト着用の勧告、安全週間パンフレットの配布など
高齢者施設、心身障がい者への協力	施設慰問、行事のときの支援、アグーナリーへの奉仕など
環境保護運動への協力	ゴミ拾い、清掃、環境保護キャンペーンへの協力など
その他	地震の募金活動及び奉仕活動の協力、文化財などの保護・維持管理、自治会などの年末警戒

③信仰：宗教章は、明確な信仰を持つことを奨励するために、また、信仰の道程のなかでひとつのレベルに達したことを認めるために設けられたものです。富士の課目では、将来の人生において遭遇するであろう、さまざまな困難に立ち向かう「強い力」を養うために、宗教章の取得を課題として設けてあります。宗教章は技能章などとは意味が異なり、あくまでも本人の信仰に基づくことが基本であり、そのため「取得するか、その取得に努力をする」となっていますが、「努力中」とは宗教章取得の過程にあることが求められます。

また、宗教章が制定されていない教宗教派に属している人は、教導職の方に事情を話し、宗教章の授与基準の各項目にわたって指導していただくようにします。

④技能章：隼スカウトになる際に、炊事章、野営章、救急章の3つは取得済みです。富士ではこれに野営管理章を加えた4つの必須の技能章と、任意に選択した技能章1つ以上の合計5つ以上の技能章取得が必要となります。

⑤成長と貢献：このプロジェクトバッジは、隼スカウトになった後に新たに取組んだプロジェクトであることが要件で、プロジェクトの分野は、隼挑戦時に取得したプロジェクトバッジと異なる分野であること、内容も隼挑戦時よりステップアップした専門性のある高度な活動であることが求められます。できれば、視野を広げるためにも、国際文化や社会・地球環境など、進歩課目の内容にはない分野での取得を目指し、将来の自分自身の糧としましょう。

また、「グループのチーフとして」とありますが、例えば後輩にチーフを譲り、自身がアシストとして参加したような場合でも、的確に指導力が発揮され、留意点や安全確保など視点を変えた評価やプロジェクト遂行への関与が認められれば、チーフとして認定されます。

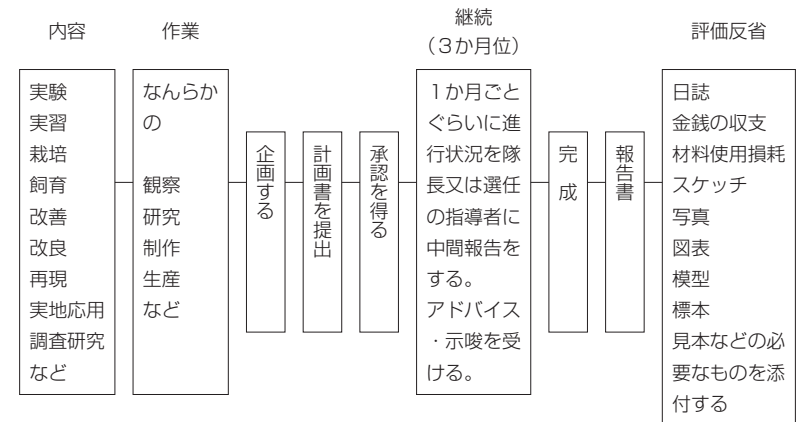
以上のすべての課目の修了を隊長から承認され、団、地区および県連盟の面接を受けることで記章が交付され、県連盟主催の富士スカウト章授与式にて富士スカウト章が授与されます。

8. ベンチャープロジェクト

「プロジェクト」とは計画、事業、研究課題などの意味ですが、「プログラム」と異なる点は、「特別に設定された計画」であるという点に強いところがあります。一般には、特に多くの人員、設備、費用を要するような大規模な事業計画をさしていることが多いのです。

ベンチャースカウト活動では、自分あるいは自分たちの成長に役立つ作業や課題を自ら設定し、その目的を達成するための手段を研究したのち計画を立案し、これにしたがって実施・展開し、評価・反省するという一連の作業をいいます。

〈内容と流れ〉



〈プロジェクトの種類〉

■個人プロジェクト

個人の余暇を利用して、個人の興味、関心などニーズを基に実施。

■グループプロジェクト

行事や事業をグループ（プロジェクトチーム）により達成するもので、ビッグプロジェクトもこのグループプロジェクトに含まれます。グループプロジェクトには、次のような編成が考えられます。

- 同一ベンチャー隊のメンバー同士で編成
- 同一団のローバースカウト隊との間で編成

- 団の行事（30周年記念式典など）に合わせた、団内有志による編成
- 県下のベンチャースカウト（またはベンチャー隊）が任意に集合して編成
- 2県以上にまたがって編成
- スカウト組織以外の団体との間での編成（ただしプロジェクトチーム編成の場合のみ。単なる行事の共催は除外）
- その他、上記以外の編成

これら他隊、他団、他団体など自分の隊のメンバー以外とグループを編成する場合は、組織としての調整や承認など、いわゆるマネジメントが必要になります。計画や時間管理には、そのための時間的な余裕を見込んでおきましょう。

9. 技能章

技能章は、2級以上のボーイスカウトとベンチャースカウトを対象とした選択課目です。技能章は、あなたたちが余暇を活用して、自分の興味や関心に基づいて選び、自分自身や社会に役立つ技能を身につけることを目的に、野外活動の技術、スポーツ、伝統的、文化的なもの、社会に役立つ技能など、幅広い分野で68種類が設定されています。

技能章課目は、日々生活のなかで実際に役立ち、視野を広げることが前提に考えられています。ある程度高度な内容ですが、あなたたちが活動中に修得できるものが数多く含まれています。

また、専門的な分野については、必要に応じて技能章指導員があたり、考査は技能章考査員が行います。この部分が進級課目の指導や考査をすべて隊長が行う進歩課目などとは異なります。

◎技能章課目の修得と考査技能章を取得しようと思ってから技能章を授与されるまでの流れを簡単に説明しておきましょう。

■技能章の課目とその内容を知ろう

技能章の課目と考査細目をよく読んで、興味や関心のあるもの、自分にとって比較的取り組みやすそうだと思う課目をリストアップしてみよう。

■取得計画を立てよう

取得する課目をリストアップしたら、いつ、どの課目を修得したらよいかを考え、計画を立てましょう。また、日頃の活動がそれらをよく取り入れたプログラムとなるよう、プログラムの組み立てを工夫します。すでにプログラムができあがっている場合は、そのプログラムでどの程度課目が修得できるかを考えます。

プログラムを展開するときには、技能章の修得課目のどれかが修得できないかということも考えに入れて展開してみましょう。

■実施・展開してみよう

技能章課目のそれぞれの考査細目について、必要な技能を身につけたり、研究や勉強をします。また、必要に応じて隊長や技能章考査員から指導やアドバイスを受けます。技能章というすぐにレポートを思い浮かべるスカウトもいるかと思いますが、考査方法は次のとおりいろいろですから、レポートが苦手というスカウトでも心配はありません。

◎実演：その場で実際に行う。

◎口述、記述：その場で答えたり、筆記によって説明する。

◎作品の提出：自分でつくった作品を提出する。

◎報告書の提出：調査、研究の経過と成果を報告書にまとめて提出する。

◎証明書の提示：すでに得た資格や実績などの証明書を提示する。

●報告書（レポート）

提出を求められているものでも、内容としては実施記録が多いので、それほど難しいことはありません。「技能章ガイドブック」を参考に進めれば、難なく取り組めるはず。レポートの書き方は、市販のレポート用紙を使ってでも十分ですが、パソコンを使って写真を取り込むなど、楽しく見やすいものにするのもよいでしょう。これならこの先あなたが作るいろいろな報告書を、USBメモリにコンパクトに収めておくこともできます。

報告書には、まず表紙を作ります。次のページから考査細目ごとに記述して行きます。

それぞれの考査細目を転記して、数行あけてから書き始めると読みやすくなります。実際に行ったことからは、図や写真を添付するだけ

第1章 ようこそベンチャースカウトへ

ではなく、隊長の認証をもらっておくといいいでしょう。「炊事章」「野営章」「野営管理章」「環境衛生章」などのガイドブックを参考にしてください。技能章取得は計画的に炊事章から早めに取得しておきましょう。

本書の内容についてお気づきの点がございましたら、プログラム課までご連絡ください。

ボーイスカウト日本連盟 プログラム課

TEL. 0422-31-5168 FAX. 0422-31-5162 program@scout.or.jp